



令和3年度 全国学力学習状況調査 結果

〔6月27日実施 対象：第3学年〕

今回の結果では、前回（令和元年度）と同様に、調査が行われた国語及び数学において、全国・群馬県の平均を大きく上回る結果となりました。また、学力差を表す数値が低く、校内の学力差が小さいといえます。以下に、今回実施された国語及び数学の2教科における本校の結果について概要をお知らせします。

【国語】

全ての領域において、全国・群馬県の平均を大きく上回る高い正答率で、四ツ葉学園の生徒が基礎的な知識を概ね身に付けていると言える結果でした。全国的に無回答率が高い記述問題に対しても、本校のほとんどの生徒たちが回答しており、本校での学習活動を通じて、最後まで粘り強く問題に取り組む姿勢が身につけていることが読み取れます。また、学習状況調査からは「国語の勉強は好きである」と回答した生徒の割合が高く、ほとんどの生徒が「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている」と回答しています。このことから本校の生徒が、国語の授業・学習に前向きに取り組む、言葉についての知識・理解を深めて目的に応じて文章を読み、その解釈を通じて自らの考えを深められていることがわかります。

一方で、複数の条件を満たしながら自分で解答を作らなければならないような問題に対して、一部の条件のみで解答を作ってしまう生徒の割合が多い点が課題です。今後は学習活動を精選し、指導事項を焦点化するなかで、設問の条件を満たす論理的な解答力を付けて更なる学力の伸長を目指したいと考えます。

【数学】

整式の計算、具体的な場面の立式、図形の関係から数学的な見方や考え方を問う問題まで高い正解率となっています。特に、式を変形し、その意味を読み取る問題、図形の性質を用いて証明する問題、与えられた条件を用いて根拠を表現する問題で、全国平均を大きく上回りました。

学習状況調査では、「数学の勉強は好きである」「数学の勉強は大切だと思っている」と回答した生徒が大変多く、意欲が高い生徒が多いと言えます。「解答を言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで粘り強く解いている」生徒がほとんどであり、授業で指導されたことや日頃の課題への取組の姿勢が反映されています。

一方で、「中央値を求める問題」「データの傾向を適切に捉え、判断の理由を表現する問題」など、資料の活用の領域において、他の領域に比べると若干課題が残りました。これらの内容については、学習から時間が経過しておりますので、定期的に復習する機会を設けるとともに、これから学習する内容と体系的に整理して定着できるようにしていきます。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現により、総合的な数学力の涵養を図り、これからの時代に求められる学力の伸長を目指していきたいと考えます。

【全体総括】

国語及び数学において、前述の通り本校生徒が着実に力を付けていることが分かりました。コロナ渦で2年ぶりの調査となりましたが、設問が増えるとともに、やや難しくなるなど、出題傾向に変化が見られました。そのため、前回の結果との単純比較はできませんが、全国・群馬県の平均を大きく上回る結果から、四ツ葉学園が日頃から行っている、「なぜそうなるのか」を考え、気づき、納得することを大切にしている授業や、大学入試を見据えた前期課程での深い学びの実践などの結果が表れていると考えられます。また、休校期間が長く続くなどの影響で学力の低下が心配されましたが、今回の結果からは学力面で早急に改善しなければならない点は見受けられませんでした。今後も、学習内容をさらに充実させ、生徒の持っている様々な力をさらに伸ばしていきたいと考えています。

学力調査と並行して行われた学習状況調査の結果から、全国・群馬県の平均と比較して本校の特徴が見られる項目を整理すると以下の通りになりました。まず、よい点についてですが、「学校に行くのが楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまくつたわるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」などの項目について、「当てはまる」と答えた生徒が平均を上回っていました。さらに、インターネットやICT機器の学習面での活用、家庭の蔵書数、新聞を読む習慣については、平均を大きく上回る結果となりました。テレビゲームなどをする時間は平均を大きく下回り、学習時間は平均を上回るなど、学習に前向きに取り組む本校生徒の姿も、今回の結果から分かりました。『四ツ葉の学び』（「知識・技能の確実な習得を基にした思考力、判断力、表現力を育成する学び」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する学び」）が定着していることが感じられました。一方で課題も見られました。「自分によいところがある」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」などの項目で、平均をやや下回る結果となりました。志が高く、学力も高い集団の中で十分な自己肯定感を持っていない生徒が多い傾向にあることが明らかになりました。これらの課題について教員間で連携を図り、引き続き学力向上に取り組むと同時に、様々な活動の中で生徒一人ひとりの良さやがんばりなどを認めながら、自己肯定感を高めていきたいと思えます。

ハイブリッド授業（対面授業＋オンライン授業）

新型コロナウイルス感染症対策のため、夏季SUPⅡ期から分散登校が続いています。緊急事態宣言の延長を受け、四ツ葉学園では対面授業とオンライン授業とのハイブリッド授業を行っています。急な対応に迫られましたが、9日、10日の試行を経て、大きなトラブルもなく、スムーズにハイブリッド授業が実施できています。ここに至るには、機器の配備、マニュアルの作成など、ICT教育係の先生が中心になり準備を進めました。また、生徒からの意見や要望を受け、字の大きさや板書の色使い、はっきり発声するなど、ハイブリッド授業の改善を生徒とともに随時行っています。



分散登校においては、運動不足に陥りやすくなりますので、規則正しく生活するとともに、ストレッチや縄跳び等の個人でもできる運動を意図的に行うなど、健康の保持増進を心がける必要があります。

感染症対策においては、今後も急な対応をお願いすることがあるかと思えます。「学びを止めない」という思いを生徒、保護者、学校が共有し、新しい生活様式の中でより良い教育を実践していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。